

おおぐち

Oguchi

町の花「さくら」



議会だより

3月定例会

No.155

17年5月1日

議会の意向を加味した設計を（建設特別委員会）

17

首長・議会・職員の三位一体（6人が一般質問）

10

敬老祝金 段階的に年齢引き上げ（委員会ハイライト）

8

町の施策5本柱を問う

6

新年度予算修正して可決

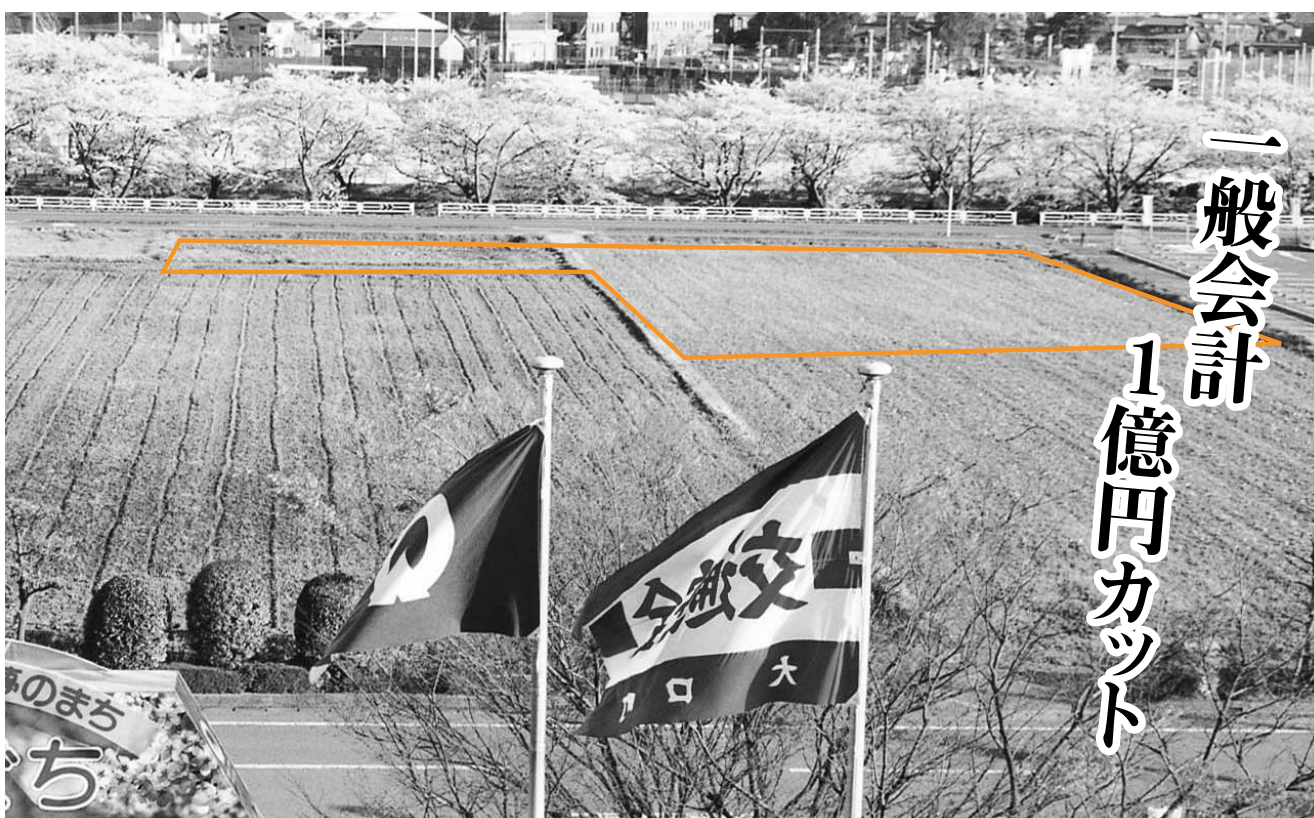
2

元気なおおぐち（西小学校 新1年生）

新年度予算修正して可決

総額116億円

下小口エコステーション 関連予算を減額



下小口エコ・ステーション建設予定地（役場南側）

3月定例会は、3日から22日まで20日間の会期で開かれました。初日には、酒井町長が「地方分権に対応し、自立した財政運営が求められる中、健全財政を維持しつつ、確実な明日への足場を固める諸施策推進の予算編成」との施政方針を表明。

17年度予算、16年度補正予算、条例の制定・改正などを含め、37議案及び1諮問を審議しました。

新年度予算以外の議案はすべて原案のとおり可決しましたが、新年度予算については修正して可決しました。

請願・陳情については、所管の常任委員会で審査し、一般質問では6人が町政全般にわたり鋭い指摘をしました。



「河北エコ・ステーション」は従来どおり稼働（河北ごみ焼却場内）

一切なし?! 下小口住民への説明

**1億円減額に
全員賛成**

新年度予算は一般会計71億7,000万円、特別会計46億662万円で提案されましたが、一般会計を1億円減額して可決しました。

減額した予算は、生ごみ堆肥化施設「下小口エコ・ステーション」建設関連の予算です。

下小口エコ・ステーションは、町の5本の主要施策の一つである「全町農業公園構想」の一環として、予算計上されたものです。

町は家庭用生ごみの処理を推進していますが、議会は剪定枝や事業系生ごみも含めた堆肥化をするよう提言してきました。新年度予算においては、下小口地区住民や、議会との十分な協議がないままの計上のため、今回予算を修正して可決したものです。

議案審議を付託された環境建設常任委員会において、委員から新年度予算を1億円減額する修正案が提出され、全員賛成で可決しました。

最終日には、委員会からの修正案を議員全員で可決、他の予算については、賛成多数で可決しました。

条 例

巡回バス有料化に向け



試行運転が続く巡回バス 役場前にて

地域交通推進会議 設置条例を制定

17年度から立ち上げる地域交通推進会議では、巡回バス有料化に向けた調査委員会の提案を基に、交通網策定に向け、協議する予定です。平行して地域再生計画の一環として「まちづくりTMO構想策定調査委員会」を立ち上げ、調査を実施します。

第6次総合計画には 町民の意見を反映

総合計画審議会条例改正

条例を改正して、審議会委員を2人減の15人、内10人の町議会議員を5人とし、新たに公募する町民の意見を幅広く反映していきます。

訪問看護ステーション おおぐち福祉会で運営

訪問看護条例の廃止

訪問看護ステーションの3月末での廃止に伴い、4月からおおぐち福祉会に移行します。施設が完成する9月までは健康文化センターでの運営になります。

※TMOとは、まちづくりを運営・管理する機関。



身体・知的障害者デイサービスセンター整備事業補助
7,312万円 事業主体はおおぐち福祉会で9月末の完成



北小体育館耐震補強事業
9,080万円 耐震補強のため鉄骨屋根に



統合中学校実施設計料
6,650万円 20年4月開校に向けた実施設計

70億7,000万円 新年度予算 一般会計 修正して可決

一般会計 前年度比
4.7%減

新年度予算は一般会計
70億7,000万円、特
別会計46億662万円
で、一般会計は前年度
4.7%、3億5,00
0万円減となります。

柏森駅 橋上化が開始

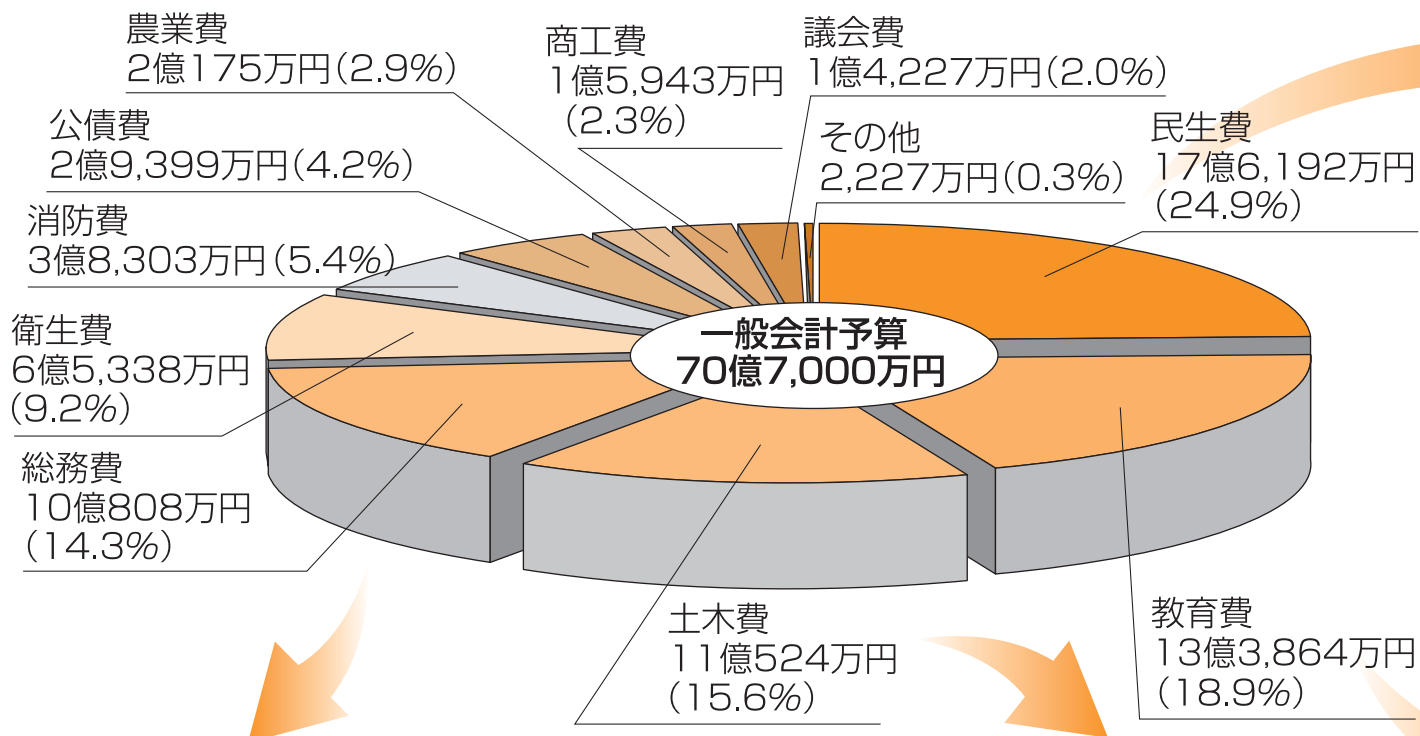
歳出では土木費が1億
5,205万円増額の11
億524万円を計上。19
年3月完成の柏森駅橋上
化に伴う負担金として
8,448万円、大之瀬
橋改良工事6,200万
円、郷浦排水路改修工事
4,698万円などがお
もな事業です。

20年4月開校目途に 統合中学校を設計

教育関連では、北小学
校体育館耐震補強工事
9,080万円、統合中
学校実施設計料6,65
0万円、小中学校スクー
ルネット推進事業5,7
67万円などがおもな事
業です。

歳入では、自主財源の
65%を占める町税で、1
億円余り増額の46億3,
012万円を計上。これ
は、景気の穏やかな回復
や自動車関連企業の好調
維持を見込んだもので
す。
依存財源としては、国
の三位一体改革などによ
り地方譲与税を、3,1
00万円増の1億7,5
00万円計上していま
す。

平成17年度 一般会計おもな事業



巡回バス試行事業（暮らし楽々まちづくり推進事業）
6,954万円 有料化に向けた実験運行を展開



柏森駅舎施設整備事業
8,448万円 柏森駅舎橋上化に伴う負担金

平成17年度予算総額
116億7,662万円
(前年対比▲0.9%)

●一般会計●
70億7,000万円
(前年対比▲4.7%)

●特別会計●
46億662万円
(前年対比5.6%)

会計名		17年度	16年度	前年対比
一般会計		70億7,000万円	74億2,000万円	▲4.7%
特別会計	国保	17億5,290万円	16億1,158万円	8.8%
	老人保健	12億7,414万円	13億660万円	▲2.5%
	下水道	8億7,110万円	7億6,491万円	13.9%
	介護保険	6億7,828万円	6億3,776万円	6.4%
	農業集落家庭排水	2,680万円	2,834万円	▲5.4%
	社本育英	151万円	151万円	0.0%
	国際交流	189万円	137万円	38.0%
	土地取得	3千円	4千円	▲25.0%
	訪問看護(廃止)	0万円	951万円	▲100.0%
計		116億7,662万円	117億8,158万円	▲0.9%

町の施策5本柱を問う

3月定例会で、17年度の施政方針を発表し、前年度より「生涯学習構想」として、さらに1本重点施策が増えました。



宇野昌康議長

- ①全町農業公園構想
 - ・生ごみの堆肥化を初め循環型社会に向けた取り組みを推進します。
- ②住民参画と参加のまちづくり
 - ・住民と行政の情報共有を進め、住民自治の拡充を目指します。
- ③サイバータウン構想
 - ・小中学校のスクールネットワーク事業を初め、高度の情報ネットワーク構築を目指します。
- ④安全安心のまちづくり
 - ・避難施設の耐震補強及び地域の自主防災力の向上に努めます。
- ⑤生涯学習構想
 - ・平成20年4月に統合中学校開校を目指します。

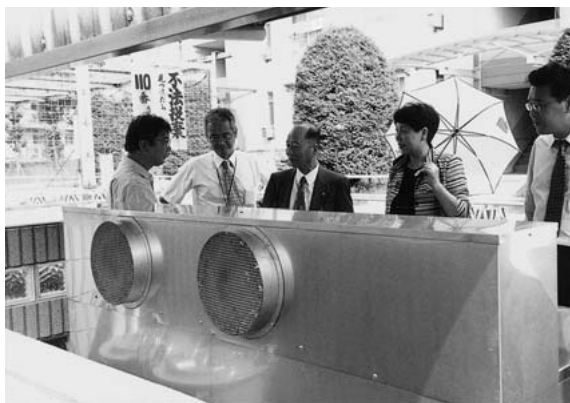
—新年度予算おもな質疑—

施策 1

ごみ減量をどう考える

分散型か集中型かは、いずれの方法でもいいと考えている。堆肥化に向けて、着実な一歩を踏み出すための予算化であることをご理解願いたい。

—ごみ減量のため堆肥化を促進する基本理念は議会も同じである。町が提案する地域分散型では時間がかかるため、集中型を提案している。議会と十分協議して予算を計上すべきではないか。



分散型施設を視察（埼玉県久喜市）

全町農業公園構想

分散・集中を問わず



集中型施設を視察（滋賀県水口町）

—下小口エコ・ステーション建設用地と工事費の概要は。

役場前の下小口7丁目168番・169番1で、面積は1,330平方メートル。平成9年に町の依頼により県農業開発公社が代行買収したもので、18年度までに買い戻す予定。

建物は1,350万円、堆肥機械は3台で1,650万円、敷地造成費1,189万円を計上した。

住民参画と参加のまちづくり

大口さくらメイト支部が減

事業見直し含め検討



大口さくらメイトによる「いこい処・さくら屋」

—元気なまちづくり事業、NPO活動事業の展開内容が町民から見分かりづらいのではないかと。

各団体個別で情報紙など住民周知を図っているが、さらに努力する。

—大口さくらメイトの末端組織が先細ってきているのではないかと。

最近では支部活動よりクラブ活動が活発なため、一支部減ると聞いている。新年度は事業見直しも含め、検討していくとのことである。

新年度事業内容を示せ



南保育園ライブカメラで園児の状況を把握

—新年度の地域情報化推進事業の内容は。

デジタルミュージアム関連のホームページの内容充実、西・北保育園のライブカメラ設置など実施していく。

災害協定の締結を



被災地に救援物資を届ける町職員（昨年10月25日）

安全安心のまちづくり

今後、検討していく

—東京都が新潟中越地方と災害協定を締結している。扶桑町初め、各自治体も支援協定を結んでいる状況も勘案し、実施する考えはないか。

今後、検討していく。

サイバータウン構想

西・北保育園にライブカメラ



歴史民族資料館資料をホームページで

—高齢者にパソコン操作は無理なため、自前のテレビで見られるケーブルテレビ導入も総合計画の中に組み入れてはどうか。

ケーブル事業者への働きかけはしている。事業者進出により、住民の選択肢が広がることは歓迎すべきことである。今後も事業者と協議していく。

新たに土曜学級嘱託員



ウィル大口スポーツクラブによるサッカー教室

生涯学習構想

週休2日制を学習面で対応

—土曜学級嘱託員が新年度に計上されているが、この内容は。

学校週休2日制導入に伴いスポーツ面に対応してきたが、新年度予算で土曜学級嘱託員を配し、ゆとり教育を取り入れた学校利用の文化・学習活動を推進する。

委員会ハイライト



柏森ロータリーを経由する巡回バス

議案は常任委員会に付託され、慎重に審査されます。
その審査の経緯と結果は、本会議で各常任委員長が報告し、
質疑、討論を経て採決されます。

町民の意向踏まえた巡回バス有料化

総務文教

巡回バス試行と合わせ、国庫補助による調査事業を進めている。17年度も1,000万円の国庫補助があるため、さらに調査を進め、巡回バス有料化に向けた事業展開をするとの説明がありました。

委員会からは、同じ路線の往復も視野に入れ、町民の意向を十分踏まえた有料化の実施を要望しました。

18年度からの第6次総合計画策定に向け、4月

には審議会委員任命、アドバイザー選定を18年3月議会で上程する予定との説明がありました。

ケーブルテレビについては、事業者にも本町への参入を伝えており、今後話し合いを進めていくとの説明がありました。

役場庁舎の将来的な耐震改修工事を視野に入れ、診断委託料450万円を計上したとの説明がありました。

敬老祝金 段階的に年齢引き上げ

新年度予算で最も活発な議論があったのは、敬老祝金です。従来、75歳以上の対象を85歳以上に変更する予算内容であるため、委員から段階的な年齢引き上げを要望しました。それを受け執行部からは、憩いの四季の入浴券配付も視野に入れ、段階的な対象年齢の引き

上げを検討するとの答弁がありました。

元気なまちづくり・NPO活動の事業内容が住民に分かりづらいため、広報等でさらに周知するよう要望がありました。結核予防事業費減額は結核予防法改正で、ツベリクリンをせず直接BCG予防接種に変更になっ

たことよるとの説明がありました。

愛知万博関連で国際化を目指すため、フレンドシップ友好国のニカラグアへの海外研修費4人分100万円を予算計上したとの説明がありました。

健康福祉



元気なまちづくり事業「元気まつり」

下小口エコ関連 修正動議を可決

環境建設

新年度予算に計上された生ごみ堆肥化施設、下小口エコ・ステーションの関連予算1億円を減額する修正動議が大森道弘委員から提出され、全員賛成で可決されました。動議の内容は「生ごみ減量と堆肥化は必要な事業である。下小口エコ建設に関して、地区住民と

生ごみ収集処理にかかる運営方法の協議がない。また、将来に対する全体の納得いく説明がない。議会から提案の集中型と執行部の地域分散型のどちらで進めるかの十分な議論がなされていない。」がおもな理由です。

焼却場がある河北地区から町に対し、江南丹羽環境の構成市町の協力を得て、ごみ減量に向けた生ごみ堆肥化推進の要望書を河北地区住民で署名し、提出する予定との報告がありました。なお、処理方法についてまでは言及していないとの説明がありました。



河北エコ・ステーション 堆肥化機械は3台

ここが聞きたい!

一般質問

町政を問う

3月定例会の一般質問は
6人が質問しました。



大森道弘議員

一般質問 大森道弘議員

早期完了を愛岐南北線 実現に向け努力

大森 県道愛岐南北線は昭和46年に都市計画決定され、平成元年に県道若宮江南線まで開通した。その後、交通量も増大し、国道155号線まで

の早期開通が望まれている。16年度は県で、1億5,000万円の補償費が予算化されているが、現在の状況と今後の見通しについて伺いたい。

町長

平成11年に都市計画変更し、県道若宮江南線から国道155号線までの760メートル区間の早期事業採択に向け、県へ要望してきた。

その結果、16年度には県で用地取得費が計上され、現在用地交渉を進めている。17年度からは国庫補助を受け、事業が継続される予定である。今後、県など関係機関への要望と用地交渉など、早期実現に向け努力していく。



町長



県道若宮江南線から国道155線への早期開通を

丁目になるのはいつ 竹田地区から順次

大森 町内でまだ地番がない地域はどれ程あるのか。また、いつまでに全域を丁目にする予定なのか。

環境建設部長

町全域で丁目

になっていない地区は、10・8%の1・47平方キロメートルである。

丁目への町名変更の手法として、地籍調査事業、土地改良事業、土地区画整理事業などがあ

る。下島地区は土地改良事業で、中小口地区は土地区画整理事業の進捗に合わせ進める予定である。地籍調査事業では、17年度から竹田地区で実施、その後はさつきヶ丘、垣田、秋田地区と事業を進めていく予定である。



環境建設部長

首長・議会・職員の三位一体

今なすべき施策を確実に

倉知

町長も町民、議員も町民、そして職員の数多くも町民である。

町長自らの施策で、はたして町民が幸せになれるのか、絶えず反省して進める必要がある。

なれ合いや対立ではなく、互いに胸元を開き、緊張感をもって議案以前の審議を尽くすべきである。多くの町民がより幸せになる施策を追究する必要があると思うが、町長の所見を問う。



倉知敏美 議員

町長

議会・町長・町民は、町の発展と町民の生活安定、福祉の向上を願う気持ち

は同じである。今回作成の「自立への道標」にもあるように、今は変革の時代である。

まちづくり地区懇談会では、地方分権時代のま

ちづくり基本理念や行動目標を示し、町民との意識の共有を図った。

議会は監査・チェック機関ではなく、立法院と考えるため、町政に対しても責任をもって具体的な施策を提案いただきたい。

未来の大口町のあるべき姿を町民・議会・執行者、ともに見出しながら、今なすべき施策を確かなものとし、明るい豊かなまちづくりに努力をしていきたい。

倉知

災害の多発した16年度、いやが上にも高まった災害に対する関心も時とともに忘れ去られようとしている。今こそ、防犯と同

じように何らかの手立てが必要である。関心の割りには低調な防災意識の現状をどう考えているのか。



総務部長

総務部長

17年度は町防災訓練と防犯水害予防組

合の水防訓練の開催も予定している。町民にはこの訓練に一人でも多く参加願ひ、各行政区に対しては自主的な訓練への協

力など、さらに防災意識の高揚を図ってきたい。

各行政区には自主防犯会、町内には有償ボランティアとして消防団があり、団員数は近隣市町と比較しても多い。しかし、団員確保は難しい現状である。

防災活動の現状と将来 行政区に応じた支援



昨年9月実施の防災訓練「土のう積」（総合グラウンド）



木野春徳 議員

子どもの安全確保 さらに安全対策を推進



北小低学年の巡回バス下校を南小でも

木野 学校内や通学路などで子ども
の安全を脅かす事件
や、危害が加えられる事
件などが多発する状況が
続いている。具体的な小
中学校での安全管理、登

下校時の子どもの安全確
保に對しての取り組み
は。
さらに、保育園や児童
センターにおける安全に
對しての取り組みについ
て伺いたい。

教育長 小中学校で
の安全管理
として、非常プザーの教
室設置・防犯訓練・児童
生徒に對する自身の安全
確保指導など実施してい
る。今後は、全小中学校
に防犯カメラの新設・増
設を予定している。

また、西小で試行のス
クールネットを利用した
保護者への緊急メールも
全小中学校で実施してい
きたい。
保育園や児童センター
の安全に對しての取り組
みは、防犯カメラを2園
で設置しており、全職員
が児童の安全第一に配慮
し、さらに安全対策を進
めていく。

木野 学習障害とい
われるLD、
注意欠陥・多動性障害と
いわれるADHD、高機
能自閉症など軽度発達障
害の児童生徒が小中学校
に6%程在籍すると言わ
れる。

教育長 該当者が多
い西小で、
16年度から特別支援教育
として年15回、専門医・
心理士による保護者や教
員への指導を実施してい
る。
17年度は、西小ではさ
らに回数を増やし、専門
医による巡回相談として
南小で4回、北小で3
回、大中で2回、北中
で1回、保育園でも3回、
それぞれ予定している。

障害の多様化を踏ま
え、従来の特殊教育か
ら、児童生徒一人ひとりの
教育的ニーズに適切に
対応する特別支援教育へ
の転換が進められてい
る。
今後、この特別支援教
育をどう進めるのか。



教育長

どう進める 特別支援教育 全小中学校で実施



柘植 満 議員



体力チェック（開眼片足立ち）にチャレンジ

介護予防の取り組み 全町的に体力チェックを

柘植

介護保険制度の安定のためには、介護状態に陥ることを防ぐ介護予防が重要である。

①独居老人など、介護が必要になった場合、住み慣れた地域で暮らすため、在宅での介護サービスの考えは。
②介護予防として、老化度測定、介護保険ケアプラン作成、介護予防プログラムの実践など、個々に合った総合的な取り組みが必要ではないのか。
③公園などに介護予防効果のある遊具の設置を。
④県で養成している「健康づくりリーダー」を、本町も育成してはどうか。

町長

①ITを活用

ケージョンの促進や高齢者が集まる場所の整備など、高齢者に優しく、互いに支え合える地域社会を構築していきたい。

②介護予防プログラムは18年度介護保険法の改正に伴い、地域包括支援センターの設置を含め、個々に合ったプログラムを作成する予定である。

介護予防の取り組みとしては、16年度から余野、さつきヶ丘地区で、高齢者対象に指導を含め



町長

た体力チェックを実施しており、今後は全町的に取り組んでいく。

③介護予防効果がある遊具の公園設置については、現在ある温水プール、トレーニングジムなどを有効活用する方向で検討していく。

健康福祉部長

④健康

づくりリーダー研修は、県が委託する財団法人が実施主体で、個人が直接申し込む制度である。

介護予防が重要になってきている現在、健康づくりリーダーも一つの選択肢であるが、現状を踏まえながら今後の健康づくりを検討していく。



健康福祉部長



吉田 正 議員

心が痛むなら 国保に傷病手当 担当課と根底から検討

吉田

町長から「国保に傷病手当制度がないことに心が痛む」と12月議会で答弁があった。

療養したら収入が絶たれてしまう人を対象に、直ちに実施すべきではないか。

町長

現在の国保事業は、社会保険のような労使間、国保組合のような同業者間といった一定条件下の制度とは異なる。

病気等で長期的に生計の負担が強いられる場合は、自助努力のほか、福祉的観点からの援助を考えるべきだと思う。

現在の事業展開のままでは、傷病手当制度は成り立たないと考えるが、議員の熱意を感じ、一度担当課と根底から検討する。



町長

軽減せよ 子育て費用 乳幼児医療制度 17年度中に検討

吉田

次世代育成支援 実行計画画策 定のアンケート結果を見ると、住民は子育てにかかる費用の軽減を望んでいる。

乳幼児医療の無料制度 拡大や保育料引き下げ、

児童手当、児童扶養手当、私学助成などを増額すべきではないか。

健康福祉部長

子育てにかかる費用は、国が支給する児童手当・幼稚園の就園奨励費を初め、児童扶養手当・私学助成など町独自の支援もしている。

その金額についても近隣市町と整合がとれたものと考えている。

乳幼児医療制度は17年度中に検討、保育料も同様に考えていく。



西保育園「親子ふれあい遊び」



健康福祉部長

区長制度と兼職

地区との協働体制から

田中

重要な個人情報である区民

台帳を区長に渡すのをやめ、役場内での閲覧に限定したのは理解できる。しかし、区長業務の軽減、執行部の批判・監視を担うべき町議会議員と区長の兼職の矛盾をどうするのか。

今回提案された区長設置規則はこうした点の解決策にはなっていない。

審議会を設け、抜本的な検討に着手し、住民自治の一層の発展を促すべきだと思いがどうか。



総務部長

総務部長

非常勤特別職である審議会委員などを町議会議員各位兼務している。この兼務に関する規定はなく、区長を兼務しても法律上問題ないと認識している。

しかし、双方の責任や果たすべき役割には相違があり、兼務による曖昧さを懸念することも事実である。

今後は、区長業務のあり方や各地区の特性を生かした協力関係の再構築が必要のため、地区と協働できる体制づくりを進めていく。

敬老祝金 75歳を維持 段階的な引き上げを検討

田中

支給年齢を10歳引き上げ、

85歳とすることで、461万円の経費削減になることである。政府が計画している公的年金の控除縮小が実施されると、65歳以上の単身者で180万円の年金収入の場合、年間11万円の負担増と名古屋市は試算している。本町ではどうなるのか。

試算して影響を考慮した上で、支給対象の削減を決断したのか。

あまりに冷たい仕打ちであり、75歳以上の支給を維持すべきと思うがどうか。



▲高木富美子さん(中小口) 昨年9月の敬老訪問

町長

税制改正による影響額の試算については、現状の税と保険料の負担は4万7,600円である。条件を加味して試算すると、税が2万9,600円、保険料などが11万2,000円で計13万9,800円となる。

敬老祝金については、高齢化の進行や平均寿命の延びにより、対象者が増加傾向にあるため、現状の対象年齢ではそぐわない状況である。

新年度で対象者を75歳から85歳へと見直す予算を計上した。健康福祉常任委員会での審議を踏まえ、対象年齢の切り上げは段階的に見直すよう再検討する。



田中一成議員

追跡

1年前の一般質問

あれから どうなった？

議会だよりでは、定例会議での一般質問の要旨を掲載していますが、その後どのように町政に反映されたかを追跡調査してみました。

今回は、平成16年3月定例会からピックアップしました。

小学校にも心の教室相談員を

小学校にも心の相談員を配置してはどうか。（寺澤正和議員）

教育長答弁

検討を重ねていく

小学校の心の相談員配置については検討を重ねていくが、西小で特別支援教育指導講師の配置を考慮していく。

どうなった

昨年4月から指導講師を配置

昨年4月から西小で特別支援教育指導講師を配置しており、本年4月からは各小中学校へも巡回し対応していく。



医師、心理士と教員（西小の特別支援教育）



昨年8月1日に発足した地域安全パトロール

安全安心のまちづくりを

各地区の自主パトロール隊への助成支援を。（柘植 満議員）

町長答弁

住民と取り組む

防犯パトロール用反射チョッキなどの支援策を検討していく。

どうなった

地域安全パトロール協議会を発足

昨年8月に、地域安全パトロール協議会が発足。現在は34団体が登録し、防犯反射チョッキ・拍子木・非常信号灯などを配付している。

平成20年4月統合中学校開校に向け

議会の意向を加味した設計を



黒川紀章氏「統合中学校設計コンセプト提案説明会」
1月29日開催



昨年12月定例会で全議員による建設特別委員会を設置。
1月「コンセプト提案説明会」で黒川氏の考え方や計画を聞く。

統合中学校

建設特別委員会の動き

大中の東・南館10月までに結論

第2回 2月22日

第2回特別委員会では、検討委員会・教職員プロジェクトチームによる合同ワークショップが提案した4プランの説明がありました。特別委員会からは、大口神社は移転を視野に入れ、大中敷地を更地とした黒川氏の自由な発想での設計を、学校敷地内の生涯学習構想は、住民ニーズを最優先に考え、さらなる協議を

と町に要望しました。これに対し、町からは大口神社移転は遺族会と協議する。東・南館校舎を生涯学習施設として残すかは10月までに結論を出すとの回答がありました。最後に町長から、最大限議会の意向を加味した配置図作成に努力したいとの説明がありました。

校舎低層化 3階建ても含め検討

第1回 2月2日

第1回特別委員会では、プロポーザルでは大中の東・南館校舎を残すこと、町立図書館併設をおもな前提条件としたとの説明がありました。また、基本設計は黒川設計による提案がベースではなく、ワークショップの手法を取り入れながら作成していくとの説明がありました。

東・南館校舎については耐力度調査結果を基に残すと判断したもので、今後委員会と協議を重ねたい。校舎低層化は3階建ても含め検討する。大口神社はレイアウト上支障があれば関係者と協議していくし、武道館は今後も検討していくとの説明がありました。

固定資産評価 審査委員会委員

石原國彦さん



上小口の石原國彦さん（63）の任期が5月6日に満了になるため、再任を求める議案が提出され、同意されました。任期は、5月7日から3年間です。

人権擁護委員

吉村千鶴さん



御供所の吉村千鶴さん（49）の任期が4月30日に満了になるため、再任を求める議案が提出され、推薦されました。任期は、5月1日から3年間です。

皆さんからの

請願



朝市で手づくり野菜をもとめる人たち

陳情

請願1件・陳情1件を審査

3月定例会に提出された請願は1件、陳情は1件であり、所管の委員会において審査しました。

▼請願は採択▲

**安全・安心な
食物供給を**

「食品安全行政の充実を求める請願書」

▼請願者

食とみどり、水を守る
愛知県労農市民会議

国に意見書を提出

▼意見書要旨

食品安全委員会に国民の意見を反映し、必要な予算を確保する。委員選任には透明性を、また輸入農産物は安全性を確保するよう要望。

▼提出者

環境建設常任委員

▼陳情は聞き置く▲

「市場化テストや給与構造見直しに反対する意見書採択を求める陳情」

▼陳情者

愛知県国家公務員連労
働組合共闘会議

▼陳情の内容

行政サービス財源の確保を要望し、公共サービス民営化・市場化テスト・公務員賃金の地域間格差導入に反対するもの。

河北子ども会

大口町 子ども会紹介

現在、町内では16の子ども会が元気に活動しており、この「コーナー」では、順次子ども会を紹介していきます。
今回は「河北子ども会」です。

毎年ドッジボール大会は、二ツ屋・仲沖と合同チームで参加します。昨年度男子は、後一步と残念な結果でしたが、女子は低学年・高学年とも3位と高成績でした。
毎年の夏祭り・秋祭り・お別れ会は、自主性を尊重し、子ども中心の活動を展開しています。
また、デイキャンプやクリスマス会では、大学生の参加も願い、人との交流に観点を置いていきます。



この一年、父兄の協力を得ながら、楽しく活動していきたいと思えます。

河北子ども会会長

直撃インタビュー



稲垣 紀子さん(中小口)

さくら連

直撃インタビューでは、町内で元気に活躍されている方にスポットをあて、紹介します。
今回は、「さくら連」代表の稲垣紀子さんです。

――発足のきっかけは。

鳴子踊りチームとして結成したのは、今から4年前。町の婦人会を「さくらメイト」と改名し、その中のクラブとして「さくら連」が発足しました。現在は総勢70人程で、30代から60代の女性チームです。

――愛知万博はどうでしたか。

万博参加に向け、オリジナル曲「さくら幻想」を依頼して作成しました。

猛練習の成果もあって、サクラが舞い落ちる動作の出だしから、会場も拍手喝采。終わった後は、感動で涙が止まりませんでした。

万博で「さくら幻想」が拍手喝采

――日頃の活動は。

練習は、ほぼえみプラザで毎週土曜日、和気あいあいとやっています。
毎年20回以上は、各地域のイベントに参加し、日頃の練習の成果を発揮しています。

――今後の活動予定は。

これからも各地域のイベント参加や、鳴子を通じたボランティア活動にと積極的に活動していきたいですね。



3月28日おおぐちDAY「愛知万博」

(インタビュー後記)

「さくら連の『明るく、楽しく、元気よく』をモットーに、これからもがんばっていきなさい。」と熱く語る稲垣さん。これからも、元気な活躍期待しています。

わがふるさと その3 再発見

仁所野遺跡

下小口

白山神社の境内にあり、昔は7つの小山があったことから、昭和35年に白山古墳群の名称で、指定文化財になりました。その後の発掘調査により、古墳よりも古い弥生時代のお墓である方形周溝墓であることがわかりました。そのため、昭和60年に改めて弥生時代から古墳時代にかけての複合遺跡として、仁所野遺跡という名称で指定文化財になりました。



仁所野遺跡（白山5号墳）

皆さん議会傍聴に
来てください

次回定例会

6月7日(火)から **予定**

手続き簡単。
3階で住所と名前を書くだけです。

議会だより編集委員会
議長 宇野昌康
委員長 宮地計年
副委員長 木野春徳
委員 吉田正
柘植満
寺澤正和
伊藤錦邑

(伊藤委員)

本号が皆様のお目につける頃は、五条川の桜も若葉まぶしい季節を迎える頃。今後、さらに議会と地域を結ぶ架け橋として輝きが増すようがんばりたい。



町村議会広報 全国コンクール

優秀賞（全国4位）

おまぐち議会だより

全国町村議会議長会が主催する第19回町村議会広報全国コンクールで、おまぐち議会だより150号（平成16年5月発行）が優秀賞を受賞しました。
今回は、全国から442点の応募があり、最優秀賞に次ぐ、優秀賞の第3位に選ばれました。



受賞した150号

今回の受賞では、150号企画特集の「新成人との座談会」やボランティアグループ紹介など、読者参加を積極的に進めたことが評価されました。

さすが、全国レベルのコンクールだけあって、連日のようには、全国の町村議会から視察や受賞号の送付依頼が殺到しています。今後も、さらに取り組んでいきます。

編集後記

突然、広報全国コンクール優秀賞獲得の吉報が。一瞬耳を疑ったが、間違いないことを確認して、内心にんまり。とにかく入賞を目標に掲げ、先進市町や各研修会で勉強にと、長年の努力がやっと実を結んだ。